

# 新収蔵品展

鳴門市ドイツ館では、第一次世界大戦の捕虜たちが日本で過ごした時代の記憶を後世に伝えるため、数々の資料を収集・展示してきました。今回の「新収蔵品展」では、過去約一年間に新たに寄贈された貴重な収蔵品を紹介します。

まず、2023年5月に八木和彦氏から「ホセ・アルバレス神父」の肖像画、7月には坂東和忠氏から元捕虜カール・シュミッツ氏の筆筒が寄贈されました。これらの展示品は、捕虜たちと日本の人々との交流や絆を感じ取る貴重な資料です。

さらに、2023年10月には元捕虜アルフォンス・レッチャート氏の旧蔵資料やフリッツ・リートケ氏の手紙、2024年3月には習志野収容所の絵はがきが寄贈されました。

そして、ドイツ人商人ハンス・ラムゼーガー氏の楽譜や飾り棚、元捕虜ゲオルグ・フォン・ヘルトリング男爵の写真アルバムも加わり、これらを通じて捕虜たちの文化的な足跡や、彼らが残した歴史的遺産に触れていただけます。

この新たに収蔵された品々を通して、捕虜たちの歴史や文化の一端を垣間見ていただき、当時の彼らの想いや文化に思いを馳せていただければ幸いです。

**2024年10月2日（水）－10月31日（木）**

休館日：第4月曜日（10月28日）

**場所 鳴門市ドイツ館 2階企画展示室**

徳島県鳴門市大麻町松字東山田 55-2

**【開館時間】 9：30～17：00（入館は16：30まで）**

**【観覧料】 大人：400円 小人（小・中学生）：100円／常設展と共通**